

江戸川柳とたばこ  
銀ぎせる松川を呑む辛い  
こと という句に詠まれた  
(松川)とは、陸奥国の白川  
地方(現在の福島県白河市)  
で栽培されていた(松川  
たばこ)のことで、「狂歌烟  
草百首」には「松川の上品四  
軒より出。余味なし。臭氣  
あり。火を点するに減ざる  
を良とす。漁師水主の人濡  
手にて撮、火皿へ盛に火のつ  
かざることなし。房総の海  
辺へ江戸より贈る」と記さ  
れている。

この句の意味を単純に読  
み解いて、銀ぎせるで吸うな  
い。火を点するに減ざる  
を良とす。漁師水主の人濡  
手にて撮、火皿へ盛に火のつ  
かざることなし。房総の海  
辺へ江戸より贈る」と記さ  
れている。

江戸川柳とたばこ  
松川たばこ  
(江戸川柳研究家)  
谷匡輔

(現在の千葉県銚子市)と  
された。ちなみに江戸  
時代は勘当にも様々な段階  
があつて、銚子への追放は中  
程度の仕置きだと言われ  
る。同様の句に、かんどう  
へ持つてうしやうと銀ぎせ  
る というのがあるが、これ  
は放蕩が過ぎる息子に対  
し、「その銀ぎせるも持つ  
ていかなければならぬと思  
う」と強調した。

近年は国内の事件・事故・災  
害・社会問題などの調査報  
道にも取り組んでいる(株)A  
に戦争・紛争地帯専  
門の映像取材等を目  
的として設立され、  
講演の講師は、主  
に海外の連合会・組合役職  
員及び来賓等を含め総勢  
147名が出席し、山路徹  
氏(ジャーナリスト)の講演  
「煙草は心の小休止」を聴